

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	B型肝炎	Transfusion. 52(2012)880-892	南アフリカにおける個別核酸増幅検査 (ID-NAT) 済み血液輸血によるB型肝炎ウイルス (HBV)感染に関する報告。2005年以来4年間で2,921,561の供血血液が、南アフリカにてHBV ID-NATスクリーニングを受け、149件のHBs抗原陰性のHBV NAT陽性供血が同定された。遡及調査によって1件のHBV感染疑い症例が同定された。149件のHBV NAT陽性検体中114件は抗HBc抗体が検出される前のウインドウピリオド(WP)で、35件は抗HBc抗体WP後であると分類された。HBV DNA陰性の状態での抗HBc抗体WP前、後における急性感染リスクはそれぞれ1:40,000と1:480,000であると推算された。供血者及び受血者から分離したHBVのゲノム配列決定、増幅、系統発生解析を行ったところ、報告されたHBV感染症例は、抗HBc抗体検出前のWPにおけるID-NAT陰性の輸血を受けた患者であった。
2	B型肝炎	Virology Journal 2012, 9: 2	ニワトリの血清及び肝中に含まれるB型肝炎ウイルス (HBV)に関する報告。プロイラーの血液検体129例及び肝臓検体193例を用いて、HBV関連検査を行ったところ、HBeAg、HBsAb、HBcAbの全陽性率はそれぞれ26.8%、53.49%、17.05%であり、一方HBeAg及びHBeAbが検出されたのは僅かであった。透過型電子顕微鏡 (TEM)により血液検体を分析した結果、HBVと類似した粒子が確認された。また、2例の肝臓検体において確認されたウイルスDNA配列は、既知のHBV株と97.9%の相同性があることが示された。今後ニワトリで確認されたHBVがヒトHBVと同一であると示されるならば、ニワトリのHBV感染は重要な問題となり得るであろう。
3	B型肝炎	J Hepatol. Jun 2, 2012	台湾におけるワクチン接種プログラムによるB型肝炎ウイルス (HBV)感染の低減に関する報告。台湾で1984年に開始された乳幼児へのユニバーサルワクチン接種プログラムの評価として、25年後の血清疫学調査が行われた。30歳未満の各年齢集団から約100人ずつ、3,332人の被験者を登録し、HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体の陽性率を比較したところ、2009年におけるプログラム開始後に出生した被験者と、1984年のベースライングループとの間で大きく異なっていた。また、前回(プログラム開始20年後)調査よりも、HBs抗原保有率がワクチン接種群でさらに減少していた。ワクチン無効者のうち86%は、母親がHBs抗原陽性であった。この結果より、若年者へのワクチンの有効性が明確であることが示された。
4	B型肝炎	J Infect Dis. 206(2012)478-485	B型肝炎ウイルス (HBV) 感染症患者の体液を介した実験的HBV感染に関する報告。慢性HBV感染症の小児39例及び成人8例における尿、唾液、涙液及び汗中のHBV DNAをリアルタイムPCRを用いて調査したところ、尿検体の73.7%、唾液検体の86.8%、涙液検体の100%、汗検体の100%にHBV DNAが検出された。血清検体と、唾液及び涙液のHBV DNAレベル間には有意な相関が見られた。また、小児1例の涙液検体をヒト肝細胞移植キメラマウス2匹に静注したところ、接種1週間後にキメラマウスの血清はいずれもHBV DNA陽性となった。マウスにおいて涙液の感染性が確認されたことから、高レベルのウイルス血症を有するHBV保有者の体液に直接接触することを防ぐ対策が必要である。
5	C型肝炎 B型肝炎	Chinese journal of experimental and clinical virology. 25(2011)301-303	中国のB型肝炎・C型肝炎同時感染患者における感染経路別の臨床的特性に関する報告。慢性HBV/HCV同時感染患者133例を、感染経路により薬物中毒群と輸血群に振り分け、疫学的、生化学的、ウイルス学的特徴を収集し、単変量解析を実施した。その結果、薬物中毒群78例と輸血群55例を比較したところ、薬物中毒群の方が年齢が低く、感染歴が浅く、肝硬変の割合が低いものの、ALT、AST及びTbilの血中濃度が高かった。また、両群において男性が多かったものの、薬物中毒群の方がより性差が顕著であった。
6	C型肝炎	HPS Weekly Report. 2 May, 2012	スコットランドにおける、C型肝炎陽性者の感染経路に関する報告。スコットランドでは、2011年に新たに2,147例がC型肝炎抗体陽性と診断され、合計で31,468例が陽性と診断されている。感染経路別にみると全感染症例のうち57%が注射薬物使用、1%が血液因子の投与であり、5%がその他の性的接触、刺青、輸血等の要因と関連していた。なお、血液因子の投与により感染した患者は、製剤に熱処理が導入された1980年代中頃以前に感染したと考えられる。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
7	C型肝炎	J Infect Dis. 206(2012)654-661	C型肝炎ウイルス(HCV)感染者の経過と伝播様式に関する報告。738例のHCV抗体陽性供血者について感染のリスク要因と経過に関して評価された。まず偽陽性排除のために第3世代リコンビナント免疫プロット法(RIBA)を用いてHCV抗体を検査したところ、469例(64%)がRIBA陽性、217例(29%)が陰性、52例(7%)が不確定であった。主な独立リスク因子は静注薬物使用、輸血、静注薬物使用や経鼻コカイン使用であった。計384例(82%)のRIBA陽性供血者がHCV RNA陽性であり、うち185例(48%)からの肝生検検体において33%に線維化は見られず、52%に軽度の線維化、12%に架橋線維化が見られた。感染後平均25年で2%に肝硬変が確認された。反復生検を行った63例の解析の結果、8%が5年以上でIshakステージ2以上に進行したことを示した。
8	C型肝炎	Salud publica de Mexico. 53(2011)S7-12	メキシコにおけるC型肝炎ウイルス(HCV)保有とリスク特性に関する報告。2006年から2009年にメキシコ19州において、輸血や危険性交渉、薬物注射等のリスク特性を持つ成人112,226例から血液サンプルを採取し、HCVの保有状況を調査した。その結果、HCV血清陽性率は1.5%であり、陽性者の60.9%に輸血歴、28.3%に肝硬変の家族歴、25.2%にタトゥーやピアス、6.9%に薬物使用があった。男性と輸血歴がHCV陽性と最も関連性が高いリスク特性であると示された。血清陽性者のうち48.3% HCV-RNAが検出され、約半数が慢性的に感染していることが示唆された。最も多い遺伝子型は1型であり、次に2型であった。
9	C型肝炎	日本臨牀. 69(2011)114-121	日本における輸血後C型肝炎ウイルス(HCV)感染の予防対策に関する報告。1996年9月、献血血液の検体保管が血液センターで開始されて以来、1997年、1998年、1999年に輸血後HCV感染がそれぞれ1例、7例、5例確認された。1999年の核酸増幅検査(NAT)導入後は2000年から2004年まで感染例の報告はなく、2005年及び2006年、2007年にそれぞれ1例が確認されたのを最後に、NATシステムの改良に伴い2012年10月までHCV感染は報告されていない。
10	E型肝炎	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)869-872	オランダにおける臓器移植レシピエントのE型肝炎ウイルス(HEV)感染に関する報告。HEV感染は免疫抑制状態にある患者にとって生命を脅かす可能性がある。2000~2011年、オランダにおいて臓器移植を受けた1200例の生存レシピエントに対しHEV RNA検査を行ったところ、12例のHEV感染が判明し、11例は慢性感染症であった。患者の年齢中央値は56.9歳、9例(75%)が男性であった。慢性HEV感染症の全患者で肝酵素レベルが上昇しており、HEV RNA検出はALTレベルの上昇と同時にまたはその後に続いた。HEV RNA陽性時からIgMが検出されるまでの期間の中央値は32日、IgGが検出されるまでの期間は平均124日であった。11例のHEV感染患者のサンプルから分離したウイルスは全てジェノタイプ3であった。HEV感染の原因が市中感染か院内感染かは不明であった。慢性HEV感染患者ではRNAが検出されてからIgM及びIgGの検出までに期間があるため、高い肝酵素値を示す臓器移植患者におけるHEV感染の診断にRNAの検出を行うべきである。
11	E型肝炎	Health Protection Report. Vol6 No.32	英国におけるE型肝炎の土着症例の増加に関する報告。イングランド及びウェールズのE型肝炎感染数は、2010年11月以降増加している。海外渡航に関連しない感染症例がその過半数を占めている。患者から分離された遺伝子型3のウイルスは、ブタにおいて確認されたウイルスと非常に類似していた。このことから、英国でのE型肝炎の感染経路は、人獣共通感染症である可能性が高い。さらに近年の調査により、小売店からサンプリングした豚肉ソーセージの10%がE型肝炎ウイルスに陽性だったことが明らかにされた。これらの製品が感染媒体である可能性が示唆されている。
12	E型肝炎	Hepatol Res. Mar 27, 2012	北海道において発生した、豚肉の摂食による急性E型肝炎症例の報告。2006年、北海道網走市内の同一の焼肉店で豚肉を摂食していた3例が急性肝炎の症状を呈した。この3例の他に、同日に同じ店で豚肉を食べていた11例についてE型肝炎関連検査を行った。その結果、3例の肝炎患者で検出されたHEV塩基配列を比較したところ、99.9%-100%が一致していた。また、他の11例のうち1例が無症状であったもののHEV抗体価の上昇を示した。これらのHEVは遺伝子型4で、網走市に隣接する北見市において2004年に発生したE型肝炎患者から検出されたHEV塩基配列と非常に類似しており、これらのウイルスは同一クラスター上に分類された。このように、土着のHEV感染は類似のアウトブレイクが将来再発する可能性があるため、感染源と食品流通経路は早急に明らかとすべきである。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
13	E型肝炎	Vox Sang. 103(2012)89-90	スウェーデン、ドイツ及び米国からの血漿供血におけるE型肝炎ウイルス(HEV)陽性率に関する報告。各国由来の血漿供血において、96供血以下ミニプール血漿中のHEV RNAについて調査した。その結果、スウェーデン由来供血の95,835本中12本、ドイツ由来の18,100本中4本がHEV RNA陽性であった。ミニプールを考慮すると、HEV陽性供血の割合はスウェーデンでは1:7,986、ドイツでは1:4,525であった。一方、米国由来の51,075供血においてHEV陽性は検出されなかった。分子学的及び血清学的分析が行われた12本の供血について、HEV株は全てジェノタイプ3であり、ウイルス量は3.2-5.7 log <sub>10</sub> IU/mL HEV RNAと日本人献血者での報告と同様の範囲であった。IgGおよびIgMの測定を行ったところ、大部分のサンプルはウインドウ期供血であった。また、検査された12本のウイルス血症供血のうちALTレベルの上昇がみられたのは3本のみであった。これはALTによるスクリーニングがHEVの除外の方法として信頼できないことを示している。
14	HHV-8感染	J Med Virol. 84(2012)792-797	サウジアラビアの血液透析患者の口腔及び血液中のヒトヘルペスウイルス8(HHV-8)に関する報告。サウジアラビアにおいて、血液透析患者72例の血漿中抗HHV-8抗体及びCD45(+)末梢血液細胞におけるHHV-8 DNA感染率を、供血者178例、妊婦60例と比較した。その結果、血液透析患者と健康な被験者間での抗体検出率は16.7%対0.4%、DNA検出率は4.2%対0.4%であった。また、透析患者の口腔内におけるHHV-8を調査したところ、HHV-8 DNAが口腔内から検出された患者5例における唾液中に排出されたウイルス量は、8,600~119,562,500GE/mlにまで分布した。さらに、サブゲノムシーケンスを実施したところ、口腔内のHHV-8は、4例がジェノタイプC2、1例がジェノタイプA1及びC2に属していたことが示された。血液透析患者の口腔内のHHV-8は高ウイルス量で、多様性があつたことから、血液とともに唾液はHHV-8感染を媒介し、血液透析患者における高いHHV-8感染リスクとなり、腎移植後のカポシ肉腫の原因となることが推測された。
15	HHV-8感染	Transfusion news. Sep 28, 2012	ウガンダにおけるヒトヘルペスウイルス8(HHV-8)陽性輸血によるレシピエント死亡率に関する報告。HHV-8の輸血感染について調査するため、ウガンダの病院で、1000例以上の患者について、HHV-8抗体陽性血又は陰性血の輸血を受けた患者の間で死亡リスクの比較を行った。その結果、陰性血を輸血された場合の6か月間死亡率は7.9%であったのに対し、保管が4日間以下の陽性血の輸血では17%であった。また、短い保管期間のHHV-8抗体陽性血を輸血された患者は、仮に輸血を受けなかった場合よりも1.8倍の死亡率であることが推測された。なお、保管期間が短くない抗体陽性血と陰性血の輸血間では、リスクの明らかな差は認められなかった。このようなHHV-8陽性血のリスク上昇の要因は不明であり、更なる研究が必要である。
16	インフルエンザ	MMWR. 61(2012)561 <a href="http://www.cdc.gov/flu/spotlights/safe-fair-going.htm">http://www.cdc.gov/flu/spotlights/safe-fair-going.htm</a>	米国におけるインフルエンザA(H3N2)v感染の報告。2012年7月、インディアナ州で開催された農業フェアに参加した人において呼吸器疾患の発生が4例報告された。患者はみなブタ出品者又はその家族で、ブタと密接に接触していた。4例の検体全例よりインフルエンザA(H3N2)変異体(H3N2v)ウイルスが確認された。いずれも入院しておらず、回復した。
17	インフルエンザ	HPS Weekly Report. 22 Aug, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)v感染の報告。2011年7月から2012年4月までにH3N2vインフルエンザ感染は13例報告され、更に153例が2012年7月から8月9日時点で報告されている。ほとんどの症例はインディアナ州及びオハイオ州で発生している。主な感染者はブタに接触又はブタがいる農業フェアに参加していたが、数例のヒト-ヒト感染も家族間や保育所内で報告された。患者は主に小児であり、重篤な合併症は報告されていない。また、季節性のインフルエンザと症状は同一であり、臨床的特徴で区別は難しいとされた。
18	インフルエンザ	MMWR Early Release. Aug 10, 2012	インフルエンザA(H3N2)vウイルスのための迅速診断テストの評価に関する報告。2012年7月12日~8月9日に、H3N2v感染患者は米国4州で153例報告され、全例がブタと接触していた。H3N2vウイルスは衛生試験所においてCDC Flu (rRT-PCR)Dx Panelにより検出することが可能である。一方、実地臨床ではH3N2vウイルスの検出にRIDTが使用されていることから、CDCはH3N2vウイルスの7種類のサブタイプを用いて7種類のRIDTの診断精度を評価した。その結果、7種類全てのH3N2vウイルスサブタイプを検出できたのは4種類のRIDTのみであった。H3N2v感染患者はかなり増加していることから、これら患者を発見するためにサーベイランスの強化が必要である。
19	インフルエンザ	<a href="http://www.abc27.com/story/19303769/pa-reports-cases-of-new-ful-strain">http://www.abc27.com/story/19303769/pa-reports-cases-of-new-ful-strain</a>	米国におけるインフルエンザA(H3N2)vウイルス感染の報告。2012年8月17日、ペンシルバニア州保健局は、H1N2vウイルス感染について新たに確定診断症例が4例、疑い症例が6例報告されたと発表した。感染した患者はいずれもthe Huntingdon County Fairに参加しており、入院した患者はおらず、ヒト-ヒト感染も確認されていない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
20	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/swineflu/influenza-variant-viruses-h3n2v.htm">http://www.cdc.gov/flu/swineflu/influenza-variant-viruses-h3n2v.htm</a>	米国におけるインフルエンザA(H3N2)v感染の報告。2012年8月17日のCDCの情報によると、新たに71例の患者が報告され、2012年7月以降の患者数は計224例になった。これまでに8例が入院しているが、全例回復しており、死亡例はない。新たな患者の報告があった州は、イリノイ州(2例)、インディアナ州(18例)、ミシガン州(1例)、オハイオ州(41例)、ペンシルバニア州(4例)、ウエストバージニア州(3例)、ウィスコンシン州(2例)であった。
21	インフルエンザ	<a href="http://www.cidrap.umn.edu/cidrap/content/influenza/general/news/aug1712variant.html">http://www.cidrap.umn.edu/cidrap/content/influenza/general/news/aug1712variant.html</a>	米国におけるインフルエンザA(H3N2)v ウイルス感染の報告。米国CDCは、ブタとの接触に関連したH3N2vウイルス感染の症例が2012年8月17日時点で230例確認されていると報告した。最も患者数が多いインディアナ州からは138例が発生している。前週から新たにメリーランド、ペンシルバニア及びウィスコンシン州において感染症例が報告された。
22	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchive/2011-2012/weekly33.htm">http://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchive/2011-2012/weekly33.htm</a>	2012年シーズン第33週における米国のインフルエンザA(H3N2)v感染の報告。2012年7月12日～8月23日、米国10州において計276例のH3N2vウイルス感染が報告された(ハワイ1例、イリノイ4例、インディアナ138例、メリーランド12例、ミシガン5例、ミネソタ1例、オハイオ98例、ペンシルバニア6例、ウエストバージニア3例、ウィスコンシン8例)。13例が入院したが、回復しており死亡例の報告はない。ヒト-ヒト感染は3例で報告されている。
23	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h3n2v-new-cases.htm">http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h3n2v-new-cases.htm</a> <a href="http://www.vancouversun.com/health/More+swine+spotted/7142523/story.html">http://www.vancouversun.com/health/More+swine+spotted/7142523/story.html</a>	米国におけるインフルエンザA(H3N2)v感染の報告。2012年8月24日のCDCの情報によると、新たに52例の患者が報告され、今年の7月以降の患者数は計276例となった。これまでに13例が入院しているが、全例回復しており、死亡例はない。新たな患者の報告があった州は、イリノイ州(1例)、メリーランド州(12例)、ミシガン州(4例)、ミネソタ州(1例)、オハイオ州(26例)、ペンシルバニア州(2例)、ウィスコンシン州(6例)であった。メリーランド州とミネソタ州では初めての報告であった。また、限局的なヒト-ヒト感染が3例で生じたと報告された。いずれも農業フェアで豚と接触した患者から同居家族に感染したと考えられており、それ以上の感染拡大は確認されていない。
24	インフルエンザ	ProMED-mail 20120830.1273921	米国におけるインフルエンザA(H3N2)v感染の報告。ミネソタ州ダコタで、州内で2例目のインフルエンザH3N2v感染の患者が確認された。患者は州内の農業フェアでブタ1頭を購入した男性であった。会場内で感染例は他に確認されていない。その後、インフル様の症状を呈した豚3頭が豚畜舎から発見され、ウイルスについて検査されている。
25	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/swineflu/h3n2v-outbreak.htm">http://www.cdc.gov/flu/swineflu/h3n2v-outbreak.htm</a>	インフルエンザA(H3N2)v感染のリスク因子に関する報告。2012年7月より、米国の多数の州において、2009H1N1パンデミックウイルスのM遺伝子を含んだH3N2変異ウイルス(H3N2v)のアウトブレイクが発生している。感染症例の調査から、主要なリスク因子はブタとの長時間の接触であることが示唆され、ほとんどの感染が農業フェア等で起きている。ヒト間での感染は限局的に発生しているが、現在のところ持続した感染は生じていない。臨床症状はほとんどが軽度のものであるが、入院や死亡に至る可能性はある。5歳以下の小児、喘息や糖尿病、心臓病のある患者、免疫抑制患者、妊婦、及び高齢者は重篤な合併症に対するハイリスク患者である。
26	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h3n2v-more-cases.htm">http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h3n2v-more-cases.htm</a> ProMED-mail 20120901.1276404	米国におけるインフルエンザA(H3N2)v感染の報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、米国において新たに12例のH3N2vインフルエンザ感染が発生し、オハイオ州で初めての死亡例が報告されたことを発表した。死亡した患者は複数基礎疾患を持つ高齢者で、祭りでブタに直接接触していた。本ウイルスのヒト-ヒト感染は限られており、散発的に発生しているが、集団での持続的な発生は認められていない。
27	インフルエンザ	<a href="http://www.cbc.ca/news/canada/windsor/story/2012/09/25/toronto-h1n1-virus.html">http://www.cbc.ca/news/canada/windsor/story/2012/09/25/toronto-h1n1-virus.html</a>	カナダにおけるインフルエンザA(H1N1)変異ウイルス感染の報告。オンタリオ州において、ブタを扱う職業の男性1例の新型ブタインフルエンザウイルス感染例が確認された。検査の結果、H1N1変異ウイルス(H1N1v)による感染であることが明らかとなった。米国内でこれまでに305例が感染したH3N2変異ウイルス(H3N2v)とは異なるウイルスであった。カナダではこれまでにH3N2vの感染は発生していない。
28	インフルエンザ	<a href="http://www.cidrap.umn.edu/cidrap/content/influenza/swineflu/news/may3012fluscan.html">http://www.cidrap.umn.edu/cidrap/content/influenza/swineflu/news/may3012fluscan.html</a>	カンボジアのブタにおけるヒトインフルエンザAウイルスの曝露状況に関する報告。2006年から2010年にプノンペン市の食肉処理場で得られたブタの血液検体1147例について、ヒトインフルエンザ抗体検査が行われた。その結果、14.9%の検体がインフルエンザAに陽性であり、2009パンデミックH1N1ウイルスについて最も多く検出された。複数の種類の抗体が検出されたブタも多く、これはブタ内でインフルエンザウイルスの再集合に繋がる可能性が高いことを示している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
29	インフルエンザ	ProMED-mail 20120908.1286721  <a href="http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h1n2v-cases-mn.htm">http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h1n2v-cases-mn.htm</a>	米国におけるインフルエンザA(H1N2)v ウイルス感染の報告。ミネソタ州保健当局により、インフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルス感染症例3例が報告された。このウイルスは、インフルエンザ(H1N1)2009/パンデミックウイルスのM遺伝子を保有していた。これらの患者は、農業フェア会場でブタとの長時間の接触があった。3例のうち2例の患者には様々な基礎疾患があるハイリスク患者で、重篤な合併症が引き起こされた。2例のうち1例は入院したが、現在は3例とも回復している。
30	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/EN_GIP_20120706CumulativeNumberH5N1cases.pdf">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/EN_GIP_20120706CumulativeNumberH5N1cases.pdf</a>	各国における鳥インフルエンザA(H5N1) 感染症例数の報告。2012年にWHOに報告されたH5N1ウイルス感染確定例は、7月6日時点でバングラデシュ3例、カンボジア3例(死亡3例)、中国2例(死亡1例)、エジプト10例(死亡5例)、インドネシア7例(死亡7例)、ベトナム4例(2例)であり、計29例(死亡18例)であった。
31	鳥インフルエンザ	MMWR. 61(2012)726-727	メキシコにおける高病原性鳥インフルエンザA(H7N3)ウイルス感染の発生報告。メキシコハリスコ州の農場一帯で報告されている家きんでの高病原性鳥インフルエンザA(H7N3)の集団発生に関連して、同ウイルスへのヒト感染事例が2例報告された。1例はインフルエンザA(H7N3)が検出された飼育場の従事者の32歳女性であり、2012年7月に結膜炎と診断された。両眼のスワブの検査により、インフルエンザA(H7)ウイルスが陽性であった。もう1例は1例目の患者の親族であり、同じく2012年7月に結膜炎を発症し、インフルエンザA(H7)ウイルス感染が判明した。両症例とも重篤な症状に至ることなく回復している。
32	鳥インフルエンザ	PLoS ONE. 7(2012)e38067	フェレットを用いた低病原性鳥インフルエンザウイルスの複製及び伝播に関する研究の報告。キョウジシギから分離された鳥インフルエンザウイルスであるH1N9及びH6N1ウイルスを、3か月齢の雄フェレットに接種し、未接種フェレットへの伝播について調査された。その結果、2つのウイルスはシアル酸 $\alpha$ 2.3結合性を有した状態で、フェレットの上気道と下気道の両方で感染が確認され、鼻からのウイルス排出と肺の炎症が観察された。H1N9ウイルスについては同ゲージで飼育した未接種フェレットが感染したが、H6N1ウイルスでは感染が確認されなかった。これは、H6N1ウイルスではH1N9ウイルスよりも、感染フェレットからのウイルス排出レベルが低かったことによるものと考えられた。
33	ウエストナイルウイルス	<a href="http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/index.htm/2012/08/17">http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/index.htm/2012/08/17</a>	米国におけるウエストナイルウイルス(WNV)感染の発生状況に関する報告。2012年8月第2週時点で、米国43州において26例の死亡を含むWNVヒト感染例693例が報告されている。これは1999年に米国で初めて検出されて以降最多のペースである。693例のうち406例(59%)が神経侵襲性疾患、287例(41%)が非神経侵襲性疾患であった。
34	ウエストナイルウイルス	<a href="http://consumer.healthday.com/Article.asp?AIID=668809">Http://consumer.healthday.com/Article.asp?AIID=668809</a>	米国におけるウエストナイルウイルス(WNV)感染の発生状況に関する報告。米国のWNV感染患者数は増加し続け、2012年9月19日時点で、患者は合計3,142例、そのうち134例は死亡している。米国CDCによると、アラスカ州とハワイ州を除く全ての州でヒト、動物または蚊にWNV感染が報告され、全患者のうち約40%がテキサス州からの報告であった。全患者のうち、52%は髄膜炎や脳炎などの神経侵襲性疾患であった。米国でWNV感染患者が報告された2003年以降、9月の第3週までの患者数としては最も多くなっている。
35	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20120623.1178585	インドにおけるクリミア・コンゴ出血熱の報告。2012年6月22日、インドのAhmedabadにおいて、クリミアコンゴ出血熱(CCHF)により、原因不明の出血熱患者の治療に当たっていた病院医師1例が死亡した。6月20日に治療中の患者の吐血を顔面に浴び、翌日から高熱、激しい頭痛及び味覚異常を感じて直ちに搬送されたが、22日に死亡に至った。
36	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20120625.1180202	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱の報告。WHOは、パキスタン国内の複数の地域で発生した麻疹とクリミアコンゴ出血熱(CCHF)に対する懸念を表明した。WHOの報告によると、全国で2012年にCCHFの報告が22例あり、そのうち5例の死亡が確認されている。Balochistanから報告された15例中、13例がQuettaの患者であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
37	ハンタウイルス	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)750-757	ボリビアにおける新規アンデスウイルスに関する報告。南アメリカにおけるハンタウイルスの遺伝的多様性を調べるため、2008年～2009年にボリビア中央部のチャパレで発熱患者の血液検査を行ったところ、ハンタウイルス属RNAは死亡した1例を含む3例の患者に認められた。ウイルスのS及びMセグメントの部分的RNA配列はアンデスウイルス系統に最も密接に関連していたが、既報告株とは異なっていた。チャパレ住民間での抗ハンタウイルスIgG抗体調査は人口の12.2%が過去にハンタウイルスへ曝露していたことを示し、農業従事者間で最も検出率が高かった。ハンタウイルス株へ曝露する人が多いこと、結果的に生じる疾病が重大であることから、この新しいハンタウイルスの宿主、浸淫地域、及び公衆衛生への影響を決定するための更なる研究が必要とされる。
38	ハンタウイルス	Euro.Surveill. 2012;17(21):pii=20180	ドイツにおけるヒトハンタウイルス感染症報告増加の報告。2011年10月から2012年8月、852件のヒトハンタウイルス感染症がドイツで報告され、そのうち68%がバーデン＝ヴュルテンベルク州で発生していた。ヒトハンタウイルスは保有宿主であるハタネズミの排泄物への曝露によりヒトに伝播し、2～4週間の潜伏期後に流行性腎症を引き起こす。2012年第17週の最新報告数は87件であり、歴史的な最多報告数である2007年第22週の96件にほぼ到達している。症例数急増の原因は不明であるが、気候要因と、恐らく2011年のブナの繁茂によるハタネズミの増加に関連すると推定されている。2012年夏季期間にさらなる症例数増加が見込まれるため、予防対策のためのさらなる情報が必要とされる。
39	黄熱	ProMED-mail 20120611.1164326	ブラジルにおけるサル黄熱に関する報告。2012年6月11日、ブラジルのSanta Maria市及びBarros Cassa市で死亡して発見された2匹のサルにおいて、黄熱ウイルス感染が確定診断されたことが報告された。州保健サーベイランスセンターは、これら2つの都市に対して、必要な保健対策を取っていることを明らかにした。各地域でワクチン接種が行われる。
40	黄熱	ProMED-mail 20120831.1275481	ブラジルにおけるサル黄熱に関する報告。2012年8月30日、ブラジルのカタンバ市の動物園において、2頭の霊長類が死亡した。市当局は、黄熱が原因として疑われており、検査結果を待っていると述べた。
41	デング熱	ProMED-mail 20120820.1252341	ベトナムにおけるデング熱症例の報告。2012年上半年期のデング熱による死亡は30例で、感染例は26,000例以上であった。ベトナム中央地域における感染例数は2011年同時期の71%増であることが報告された。
42	デング熱	Transfusion. 52(2012)1657-1666	プエルトリコにおける輸血によるデング熱感染に関する報告。2007年、プエルトリコにおいて計10,508例のデング熱疑い症例が報告された。これを受けて、供血がデングウイルス(DENV) RNAについて検査され、RNA陽性供血の受血者は輸血感染の評価のために追跡された。検査された検体15,350例のうちTMA法によるDENV RNA検査に対する繰り返し反応(RR)が確認されたのは29例であり、1/529の割合であった(0.19%)。蚊での培養により感染性を示した12例において、RT-PCRによりウイルス力価105～109copies/mLでDENV 1型、2型及び3型が検出された。TMA-RR供血の受血者29例のうち3例が検査されたところ、108copies/mLのDENV-2を含む赤血球を輸血されたプエルトリコの受血者1例が輸血3日後に発熱し、デング出血熱に進行した。受血者もDENV-2陽性であり、供血者と受血者の両方が同一のエンベロープ配列を有していた。
43	灰白髄炎	ProMED-mail 20120319.1074212	インドにおけるワクチン由来のポリオ感染の報告。インドで2012年初のワクチン由来ポリオウイルス(VDPV)による感染例が報告された。ムルシダーバードの生後5か月の乳児1例で、経口ポリオワクチンの摂取後にウイルスに感染した。しかし、サーベイランスシステムでVDPVが検出された場合はポリオ患者にはカウントされず、インドのポリオフリー状況には影響しない。
44	灰白髄炎	The Weekly Epidemiological Record. 87(2012)245-252	2012年における急性弛緩性麻痺(AFP)サーベイランスの実績及びポリオの発生に関する報告。2012年6月12日時点でWHO本部が受理したデータによると、それまでの世界AFP症例は38,898例、ポリオ確定症例(野生型ポリオウイルス)は88例(73例)であった。ポリオ症例はアフリカ地域及び東地中海地域において主に発生していた。
45	口蹄疫	OIE 2012 April 11	台北における口蹄疫:発生日 2012年2月16日、最初の確定日 2012年2月18日、報告日 2012年4月11日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2012年3月30日にCHANG-HUAで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて感染の疑い例3055頭、確定例4頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
46	ロタウイルス	Infect Genet Evol. 12(2012)1676-1684	欧州において初めてのG5P[6]遺伝子を持つロタウイルスの報告。ブルガリアにおいて進行中のロタウイルスのサーベイランスシステムの中で、珍しいロタウイルスA株であるRVA/Human/BG/BG620/2008/G5P[6]が同定された。この株は、G5-P[6]-I1-R1-C1-M1-A8-N1-T1-E1-H1というゲノム構成を示し、ヒトとブタ由来のRNA遺伝子を保有していた。しかし、この地域でのブタロタウイルスの遺伝子配列情報は十分でないため、遺伝子の伝達様式について調査することはできなかった。この株は接種されているワクチンとの間で中和抗体を共有していないため、今後も注意して継続的なモニタリングを行うことが必要である。
47	パルボウイルス	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)680-683	カメルーンにおけるヒトパルボウイルス4(PARV4)感染の報告。2009年に採取されたカメルーン人の血清サンプル451例を用いてPARV4抗体陽性率の調査を行った結果、79例(17.5%)がPARV4抗体を有していた。PARV4抗体陽性はマラリア予防薬の静脈注射、結核の非経口治療、避妊薬の筋肉注射に関連があった。また、高齢者よりも60-64歳の初老の人に陽性者が多かった。これはウイルス曝露の経年的変化や、PARV4抗体価が次第に弱まっていき、最終的に偽陰性となること等が考えられる。今回の調査結果より、ある程度のPARV4非経口感染があることが示唆された。
48	パルボウイルス	Transfusion. 52(2012)1482-1489	血友病患者におけるヒトパルボウイルス4(PARV4)の感染に関する報告。血漿由来ウイルス不活化凝固因子製剤の治療を受けている血友病患者に対するPARV4の潜在的伝播を調査するため、血友病患者集団194例におけるPARV4抗体の陽転化についてスクリーニングを行った。その結果、検査開始時のPARV4抗体陽性率は44%であり、観察期間中9例の被験者(うち7例はHIV陽性)において抗体が陽転化した(発生率、1.7%/年)。感染した被験者は比較的長期のウイルス血症期間を示し、感染急性期に弱い一過性のIgM応答を示した。この研究により、PARV4はウイルス不活化処理に抵抗性を持つ輸血感染性病原体であることが確認された。血漿由来血液製剤を使用する人々において、定期的に感染が発生する可能性が懸念される。
49	パルボウイルス	Transfusion. 52(2012)1490-1497	パルボウイルスB19(B19V)ジェノタイプ3の不活化及び中和に関する報告。B19Vジェノタイプ3の不活化について感染ウイルス粒子の細胞培養アッセイを用いて調査したところ、56°Cのアルブミンでのパスツリゼーション及び免疫グロブリン製造に使用される低pH状況下でのインキュベーションにより、B19Vジェノタイプ1と3は同様に不活化された。両方のジェノタイプは、北米又はヨーロッパ由来の免疫グロブリン製剤によって速やかに中和された。これらの結果より、パスツリゼーションと低pH処理はB19Vジェノタイプ1及び3の不活化において同様に有効であり、免疫グロブリンが両方のジェノタイプによる感染症の治療に効果的であることが示された。
50	パルボウイルス	Vox Sang. 103(2012)183-185	中国の原料血漿プールにおけるパルボウイルスの検出に関する報告。2007年から2010年の間に3つの製造業者で収集された計195の原料血漿プールについて、リアルタイム定量PCRによりパルボウイルス4(PARV4)-DNAの検査を行った。対象となった血漿プールは事前にHIV、HBV及びHCVには感染していないことを確認した。検査の結果、26.15%がPARV4-DNA陽性を示した。このうち、製造業者Aの陽性率は38.61%、一方でBとCではそれぞれ15.00%と12.16%であった。DNA量を測定したところ、血漿中で $2.83 \times 10^3 \sim 2.35 \times 10^7$ copies/mLの範囲であった。血漿プール中のPARV4の高い混入量は、輸血に対する潜在的なリスクになり得る。
51	ウイルス感染	Jordan Times. Apr 22, 2012	ヨルダンで発生した原因不明の感染性疾患に関する報告。2012年4月19日、保健当局はヨルダンZarqaにある病院のICUで発生した呼吸器疾患のアウトブレイクを報告した。看護師7例、医師1例を含む11例が感染した。アウトブレイクは制御下に置かれ、更なる感染が発生する危険はないことが発表された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
52	ウイルス感染	WHO/GAR/Disease Outbreak News. Sep 23, 2012 HPS Weekly Report. 27 Sep, 2012 WHO/GAR/Disease Outbreak News. Sep 25, 2012 CIDRAP News. Sep 25, 2012 ProMED-mail 20120923.1305982	サウジアラビアにおける新規コロナウイルス感染者の報告。49歳のカタール国籍の男性がサウジアラビアへの旅行から帰国後、急性の呼吸器症候群を発症した。患者は2012年9月にカタールのICUへ入院した後に英国へ緊急搬送され、英国健康保護局 (HPA) での検査により新規のコロナウイルスへの感染が判明した。遺伝子配列の解析の結果、2012年始めに死亡した60歳のサウジアラビア人の肺組織から得られたウイルスと99.5%の相同性が示された。WHOは更なる情報収集を行っている。
53	ウイルス感染	Arch Virol. 157(2012)521-524	中国のブタにおけるブタ・サイトメガロウイルス (PCMV) 及びサポウイルス (SaV) の抗体陽性率に関する報告。2005年5月から2010年10月にかけて、中国湖南省でブタの血清検体500例中のPCMV及びSaVに対する抗体をELISAにより評価した。対象のブタは省内の10の地域に分布する農場から集められた。その結果、全陽性率はPCMVについて96.40%、SaVについて63.40%であり、繁殖期の雌ブタで陽性率が最も高かった。調査結果はPCMV及びSaV感染の両方が湖南省のブタで広く流行していることを示している。
54	ウイルス感染	Chinese journal of Zoonoses. 28(2012)442-448	中国におけるヒトへの山羊痘感染発生の報告。2010年、中国重慶市において山羊痘感染症例が34例報告された。そのうち5例から小嚢液、眼脂又はかさぶたを採取し、4例の山羊痘感染ヤギの検体と共にウイルスDNAの検出を行ったところ、全ての検体が山羊痘ウイルスA29L遺伝子に陽性であった。また、ヒト症例5例中4例について山羊痘ウイルスP32遺伝子に対しても陽性であった。ヒト2例及びヤギ1例から得られたP32遺伝子の配列を比較すると100%の相同性が得られ、双方のウイルスが同一であることが示された。今回の感染者には全て罹患ヤギとの接触歴があったため、直接ヤギと接触したことが、山羊痘感染の主な原因であったと考えられた。
55	ウイルス感染	Hepato Res. 41(2011)971-981	高いALTレベルの献血者から分離された新規DNA配列に関する報告。ALT値が上昇した500例の献血者の血清検体についてPCRによりスクリーニングされ、得られた配列のウイルス特性について調査された。その結果、4例の血液サンプルに9496 bpの新しいDNA配列が含有されていることが判明し、これをKIs-Vと命名した。KIs-Vは制限酵素SalI及びBstXIIに反応した。KIs-Vはヒト白血球DNAから検出されなかった。連続濾過により、KIs-Vは30-50nmの粒子であることが示唆された。in silico分析より、KIs-Vは13のORFを含むことが分かり、既報告のいかなるウイルスタンパク質とも相同性を示さなかった。1つの遺伝子は、DNAポリメラーゼ領域に類似性を示した。転写開始及びCpGアイランドの強いシグナルが確認された。KIs-Vのヌクレオチド構成は複製開始点と終点を含む環状DNAゲノムの特徴を示した。予備研究において、KIs-Vは高いALT値を示すE型肝炎ウイルス抗体陽性者において度々検出された。これらの結果より、KIs-Vはエンベロープを有する新しい分類の二本鎖環状DNAゲノムであることが示された。
56	ウイルス感染	<a href="http://www.focus.de/p-anorama/welt/tropischer-vogel-virus-in-deutschland-usutu-virus-infiziert-ersten-deutschen-aid_803136.html">http://www.focus.de/p-anorama/welt/tropischer-vogel-virus-in-deutschland-usutu-virus-infiziert-ersten-deutschen-aid_803136.html</a> Euro Surveill. 2012;17(21):pii=19935 ProMED-mail 20120821.1255556	ドイツにおける初めてのウツウウイルス感染の報告。2012年8月、Bernhard Nocht熱帯医学研究所 (BNI) はドイツにおいて初めてのウツウウイルス感染者が検出されたことを発表した。4200例の血液検体に対して検査を行った結果、1例の陽性が検出された。感染が確認された男性に感染症状はなかった。2011年夏期に、南ドイツでウツウウイルス感染により多数のクロウダトリが死亡し、2012年においても既に多数の鳥の死亡が報告されていた。



ID	感染症 (PT)	出典	概要
57	ウイルス感染	MMWR. 61(2012)245-248	米国における家庭内曝露によるヒトOrfウイルス感染症の報告。2009年から2011年に家庭内での肉の調理や宗教行事としての動物の屠殺に関連してorf(伝染性膿疱性皮膚炎)を発症した4症例について報告された。63歳女性は屠殺されたヤギの骨が右手の掌にささり、その後損傷部位に丘疹及び水疱が形成された。42歳男性は宗教行事として子羊の屠殺を補助し、5日後に左手に水疱と腫脹が発現した。35歳男性はイースターフェスティバルでの子羊の屠殺時に左手の親指をナイフで切り、その後同部位が腫脹し疼痛が発現した。28歳の妊婦は自宅で子羊の頭を調理中に骨で右手を切り、同部位に水疱性病変が発現した。これら4例中2例は細菌感染症の疑いで抗生物質を処方されたが、症状は改善しなかった。転帰不明の1例を除く3例は病変部の外科的切除などを行い、治癒した。
58	ウイルス感染	N Eng J Med. 367(2012)834-841	米国における重症熱性疾患と関連する新規フレボウイルスの報告。ミズーリ州北西部の2人の男性が、発熱、疲労、下痢、血小板減少及び白血球減少で別々に医療機関を受診した。2例は発症5~7日前にダニに刺されていた。Ehrlichia chaffeensisが原因であると疑われたが、血清学的分析、PCRアッセイまたは細胞培養により陰性であった。電子顕微鏡検査でブニヤウイルス科のウイルスの存在が明らかになった。次世代シーケンズと系統発生解析により、フレボウイルス属に属する新規ウイルスを同定した。コッホの原則は完全には満たされなかったが、この米国における新たなフレボウイルス(ハートランドウイルス)はこれらの臨床的な症候の原因であると考えられる。
59	ウイルス感染	PLoS ONE. 6(2011)e28553	市販ウシ胎児血清(FBS)から検出された非定型ウシペステウイルスに関する報告。市販されているFBSのペステウイルス汚染を調査するために、10業者から得られた33バッチのFBSについて分析した。その結果、33バッチ全例において少なくとも1種のウシペステウイルスに陽性であった。一方で、非定型ペステウイルスは5カ国由来の13バッチで検出された。5'UTR領域の部分配列解析により、これらの非定型ウシペステウイルスの間で高い類似性が示された。本研究により、地理的に異なる起源の市販FBSが新興の非定型ウシペステウイルスにより汚染されていることが示唆された。
60	ウイルス感染	WHO WPRO Press Release. Jul 12, 2012 ProMED-mail 20120713.1200936	カンボジアの幼児における手足口病(HFMD)に関する報告。カンボジアの幼児において原因不明の致死性疾患が報告されたことを受け、31例の患者サンプルについてパスツール研究所で検査を行ったところ、大部分の症例の原因はHFMDの重症型であるという結論に至った。サンプルの多くがHFMDの原因であるエンテロウイルス71(EV-71)陽性であった。確認された計78症例のうち61例について調査を行った結果、大部分の患者は3歳以下で、異なる14州から報告があり、数例は慢性状態であることが分かった。WHOや関連機関の援助を受け、保健省は調査を継続するとともに、全てのHFMD患者を報告するよう指示し、サーベイランスを強化した。
61	ウイルス感染	ProMED-mail 20120917.1297716	コンゴにおけるサル痘感染発生の報告。2012年9月15日、サル痘感染が疑われる患者がコンゴButembo市で確認されていることが発表された。現在患者の状態は落ち着いており、採取された検体は専門機関に送付されている。サル痘は霊長類や齧歯類のウイルス感染症で、感染動物による咬傷や血液との接触、摂食によって感染伝播する。
62	ウイルス感染	Virology Journal 2012, 9: 129	中国におけるワクチン由来が疑われるブタのニューカッスル病ウイルス(NDV)感染に関する報告。NDVは鳥類だけに感染すると考えられてきたが、中国においてXiny10と呼ばれるパラミクソウイルスの1つが、ブタから分離された。Xiny10とNDVおよびNDVのワクチン(La Sota株)について、遺伝子配列及び生物学的特徴に基づいて比較した。その結果、Xiny10はNDVであることが確認された。中国ではこれまでトリに対してLa Sotaの生ワクチンが接種されていたことから、Xiny10はLa Sota由来である可能性が示唆された。
63	ウイルス感染	WHO/GAR/Disease Outbreak News. Jul 9, 2012	原因不明の疾患で死亡したカンボジアの小児におけるウイルス検出の報告。カンボジアにおいて、2012年4月から7月5日までの間に原因不明の疾患にかかった小児59例が報告され、うち52例が死亡した。患者は大多数が3歳未満であり、男女比は1.3:1であった。最新の検査結果によると、患者検体の多くで手足口病(HFMD)を引き起こすエンテロウイルス71(EV-71)に対して陽性反応を示した。他にも、デング熱とブタ連鎖球菌等の病原体について検出されたが、インフルエンザウイルスやSARS、ニパウイルスには陰性であった。更なる検査が現在進行中であり、数日以内に結論が出される予定である。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
64	BSE	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)890-892	スイスのウシより新規BSEプリオンが検出されたとの論文に対する問題提起の報告。以前、SeuberlichらがBSEのウシから現在の分類とは異なる新規のプリオン蛋白が検出されたとして報告した論文について、検証された。新規のプリオン蛋白のウェスタンブロットパターンは、正常プリオン蛋白のC1フラグメントのパターンと類似しているように見えた。スイスで発見されたウシの組織は激しく自己分解されていてプロテアーゼKが既に弱められていた可能性があり、プロテアーゼ耐性の高いC1フラグメントと反応させた場合、場合消化が不完全になる可能性が考えられる。よって、Seuberlichらの論文で説明されている新規のPrPresは、実際には正常ウシPrP <sup>C</sup> 蛋白の切断フラグメントである可能性が大きい。
65	BSE	JGV Papers in Press. Sep 5, 2012	PMCAを用いたBSEウシの末梢組織におけるPrP <sup>Sc</sup> の検出に関する報告。The protein misfolding cyclic amplification (PMCA)法によるPrP <sup>Sc</sup> の検出感度を検討するために、経口的にBSEに感染させたウシから採取した異なる組織の検体48例について標準的PMCAプロトコルを用いて検査した。その結果、頭部ではPrP <sup>Sc</sup> が脳、脊髄、神経節、視神経及びパイエル板で確認された。腸間膜リンパ節、副腎においてもPrP <sup>Sc</sup> が検出された。また、初の報告として、ウシの食道、皺胃、瘤胃及び直腸において陽性の結果が得られた。
66	BSE	OIE 2012 May 15	米国におけるBSE:発生日 2012年4月19日、最初の確定日 2012年4月23日、報告日 2012年5月15日、原因 プリオン非定型BSE。2012年4月19日にカリフォルニアでBSEのアウトブレイクが発生したとの報告の続報。感染ウシは当該農場内で生まれた。2頭の子供がいたが1頭は死産で、もう1頭は生存していたがBSE陰性だった。
67	BSE	OIE 2012 July 6	米国におけるBSE:発生日 2012年4月19日、最初の確定日 2012年4月23日、報告日 2012年5月15日、原因 プリオン非定型BSE。2012年4月19日にカリフォルニアでBSEのアウトブレイクが発生したとの報告の続報。免疫化学的検査とウェスタンブロット検査により、ウシが摂食した飼料と感染は関連がないことと、非常に稀な非定型BSEであることが示された。
68	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion. 52(2012)1290-1295	フランスの供血者における無症候の弧発性クロイツフェルト・ヤコブ病 (sCJD) 患者に関する疫学的研究の報告。フランスにおける1999～2008年のデータを用いて、一般でのsCJD症例及び献血者集団の人口統計学的特性から、臨床症状を呈する前のsCJD供血者の年間推定患者数が推定された。その結果、供血時から1年以内にsCJDを発症するドナーは毎年平均1.1例であり、5年以内が6.9例、10年以内が18.0例、そして15年以内の発症が33.4例であると推定された。供血時にほとんどのsCJD感染者が後期前臨床段階でないことが予想された。今回の結果及び長年に渡ってsCJDの増加が世界的に確認されていないことは、輸血によるsCJD感染のリスクが非常に低いことを示している。
69	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)901-907	医原性クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) の最終評価に関する報告。医原性vCJDの発現はほぼ収束を迎えたが、例外的に長い潜伏期間を伴う発現症例が現在もみられている。主因はvCJD感染死体に由来する成長ホルモンや硬膜移植片であり、他には少数例として脳神経外科器具の汚染、角膜移植片、性腺刺激ホルモンを介したものと、輸血による変異型vCJDの二次感染が挙げられる。医原性感染を防止する最良の方法は一次感染の防止であるが、無症状の感染者を特定する検査がない限り、リスクを完全に除くことはできない。従って、現段階では、①vCJD発症リスクが高い人間の識別及び臓器提供の延期、②医療器具の殺菌時や組織及び体液の処理へのプリオン低減工程の組み込み、という方法をとらざるを得ず、この組み合わせがリスクを最小化することに繋がっている。
70	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report. 6(2012)4-5	英国における異常プリオンの保有率に関する報告。英国海綿状脳症諮問委員会が、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の有病率を調査するため、2000年～2012年に英国の41病院から収集された虫垂検体32441例を免疫組織化学的に検査したところ、異常プリオンが16例において検出された。これらの陽性検体は既知の英国vCJD症例176例のものではなかった。全体の有病率の推定値は百万分の493(95%信頼区間: 282～801)で、1995年～1999年に実施された前回調査結果の百万分の237(95%信頼区間: 49～692)と統計的に一致していた。今回の調査では、前回よりも広い出生集団においてプリオンが存在していることが示された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
71	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science. 335(2012)472-475	プリオンの異種間伝播をもたらす、神経外組織のプリオン感染性に関する報告。脳組織及びリンパ組織におけるプリオンの感染性を調査するために、ヒツジ及びヒトのPrP <sup>Sc</sup> トランスジェニックマウスの脳中にヘラジカ、ハムスター及びウシから採取されたプリオンを注入し、脳中と脾臓中のプリオンを定期的に測定した。その結果、脳組織にプリオンが検出された割合よりも脾臓組織でプリオン陽性となった割合の方が高かった。感染させたマウスから得た脾臓と脳の抽出液を、再感染させると、脾臓抽出液の方が効率よく伝播した。この結果より、プリオンは脳組織よりもリンパ組織を通じて種のバリアを容易に通過する可能性が示された。
72	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	<a href="http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM307137.pdf">http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM307137.pdf</a>	米国FDAによる、血液製剤を介した変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の伝播リスク減少のための措置に関するガイダンス案。動物実験およびFDAのリスク・アセスメントの結果、血漿分画製剤によりvCJDを発症する可能性は極めて低いが、完全には排除できないと結論付けられた。これを受け、血漿分画製剤の添付文書において新たにvCJDに言及し、その感染リスクを明記するよう勧告する。同様に、血漿由来のアルブミン及び血漿由来アルブミンを使用した製品についても、改訂が勧告する。本ドラフトが最終版となる際には、2010年のCJD/vCJDガイダンスのセクションVII.Bに置き換わるものである。
73	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Prion 2012. PO-251	赤血球輸血経由vCJD感染のリスク評価モデルバリデーションに関する報告。英国とフランスにおける輸血感染vCJD(TTvCJD)のリスク推定モデルが開発された。入力値として両国の潜在的vCJD有病率、供血者数と赤血球輸血数、疾病の感染性、受血者の感受性等が使用された。英国の有病率は疫学的モデリング研究から算出された低い推定値と、組織サーベイランス研究による高い推定値に層別化され、フランスの有病率は英国のデータを元にそれぞれ算出された。モデルの評価のため、1980年以降の症例数予測を観察症例数と比較したところ、TTvCJDリスク推定はモデルに使用された推定有病率に大きく依存していたが、低い推定有病率を用いたモデルは臨床TTvCJD報告数とほぼ一致していた。また、高い推定値を用いると、推定無症候性感染数は推定臨床症例数の10倍以上多いと予測された。これは感染した受血者の約90%が明確なvCJD兆候を示す前に他の要因で亡くなった可能性を示している。将来、このモデルは米国におけるTTvCJDリスク及び現在の安全性介入の有効性の推定に適用されることが予測される。
74	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20120626.1181644 The Pig Site. Jun 25, 2012	ベトナムにおけるブタ連鎖球菌感染の報告。ベトナム北部でブタ繁殖呼吸器障害症候群が拡大している。この影響で、ヒトへのブタ連鎖球菌感染も増加している。国内の熱帯病中央病院には20例以上の患者が入院しており、髄膜炎や敗血症等を併発している。加熱不十分なブタの摂食や直接接触等が感染の原因であることが推察されている。
75	レンサ球菌感染	日本獣医師会雑誌. 65(2012)601-604	Streptococcus pluranimaliumが関与したウシの流産に関する報告。福井県の酪農家において胎齢158日で流産したウシの胎子について検査された。剖検所見では、広範な膠様萎縮が胎子の皮下結合織と胎膜で認められ、血様の腹水、胸水及び心嚢水の貯留が認められた。病理検査では、胎盤に多数の好中球とマクロファージの浸潤を伴う炎症反応が確認された。また、細菌学的検査により、多臓器からレンサ球菌が分離され、S. pluranimaliumと判定された。他の起因微生物が検出されなかったことから、この細菌が流産に関与していることが示唆された。
76	炭疽	OIE 2012 May 28	コロンビアにおける炭疽: 発生日 2012年5月15日、最初の確定日 2012年5月25日、報告日 2012年5月28日、原因 炭疽菌。2012年5月15日にLa Guajiraで炭疽のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ6頭、ヤギ93頭、ヒツジ97頭、ブタ6頭、確定例ヤギ8頭、ヒツジ6頭、ブタ2頭、死亡例ヤギ8頭、ヒツジ6頭、ブタ2頭、屠殺例0頭であった。
77	炭疽	ProMED-mail 20120525.1143829	コロンビアにおけるヒト炭疽感染の報告。2012年5月、コロンビアのマナウレ農村地帯で60頭の家畜(ヒツジ31例、ヤギ26例、ブタ3例)の死亡と、3例の皮膚病変患者の発生が報告された。新たな炭疽感染流行が懸念されている。初めての報告はヒツジ1例の突然死で、摂食によりヒト3例が感染した。
78	結核	J Oral Maxillofac Surg. 70(2012)e12-22	インドにおける口腔顔面結核患者の臨床症状に関する報告。インドのムンバイにおいて、1996年から2011年にかけて、46例の口腔顔面結核患者が10項目からなるAndrade's分類を用いて評価された。男女比は0.917で偏りはなく、ほとんどの患者が20代又は30代であった。22例において、下顎の角度と関連する症状が現れていた。インドのような結核発生率の高い国では、結核病巣は口腔顔面にも及ぶということを認識する必要がある。
79	結核	ProMED-mail 20120426.1114435	インドにおける多剤耐性結核症例の報告。インドのプネ郡において、2012年4月24日までの2か月間に新たに63例の多剤耐性結核患者が報告されている。そのうちPimpri-Chinchwadは26例、Puneは23例であった。郡農村内部からも、14例の患者が報告されている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
80	赤痢	Jpn J Infect Dis. 65(2012)277-278	東京における男性と性交渉のある男性 (MSM) 間での赤痢アウトブレイクの報告。2011年9月から11月に5例の細菌性赤痢患者が東大医科学研究所に入院した。患者は全てHIVに感染したMSMであり、CD4 T細胞数は168-415 cell/ $\mu$ Lで、3例は既にART治療を受けていた。患者は腹痛、水様下痢、発熱などを呈した。全員の糞便培養から <i>Shigella sonnei</i> が検出され、レボフロキサシンによる治療を受けた。患者の平均発症期間は10日と、通常 (2-3日) より少し長かった。問診では5例の患者間における直接的な接触のような密接な関係は認められなかった。全患者の分離株の分析の結果、類似のパターンを示すことが明らかとなり、単一の <i>S. sonnei</i> 株がMSM間に広まったことが示唆された。日本でのMSMにおける初めての赤痢菌アウトブレイクの報告は、MSMに対して赤痢菌を含む性感染性病原体に対する予防行為の重要性をより強調するものとなる。
81	ブルセラ症	Trop Anim Health Prod Mar 3, 2012	ブラジルにおけるブタブルセラ症のアウトブレイクの報告。2006年7月、サンパウロの Jaboticabal の家畜の群において、ブタブルセラ症のアウトブレイクが発生した。雌ブタの多くは流産を経験し、後部の麻痺は現れたブタもあった。271頭の雌ブタのうち254頭と、62頭の無作為に選んだ出荷前のブタのうち17頭がブルセラ症と診断された。14頭の流産胎児と6頭の雌ブタから <i>Brucella suis</i> 次亜種1が分離された。また、14人の農場従事者のうち3人がブルセラ抗体陽性であった。流産胎児に直接接触していた1人はブルセラ症の臨床症状を示していた。 <i>B. suis</i> は <i>B. abortus</i> よりヒト毒性が強く、感染した家畜の菌レベルが高いため、ヒトの感染リスクが高いとされている。
82	細菌感染	Eur Spine J. Apr 17, 2012	ポーランドにおけるブタ由来の丹毒感染症例の報告。患者は農業に従事する62歳男性であり、2型糖尿病患者であった。ブタの骨断片による右足の皮膚切創後に類丹毒を発症し、炎症が拡大して蜂巣炎を発現したため、皮下組織のドレナージと抗生物質により治療が行われた。細菌学的検査により、患者からブタ丹毒菌が検出された。背部痛もあったが、整形外科にて検査は実施されなかった。2か月後、両下肢の対麻痺等が発現して神経科に入院した。患者は脊柱管における蓄膿形成、傍脊椎腔の膿瘍及び脊椎炎を呈していた。血糖値を正常化させた後、手術により脊柱管のドレナージが行われた。抗生物質投与を8週間行い、神経状態は改善した。当該患者において丹毒感染が重症化したのは、糖尿病があったことと、最初の抗生物質投与が短すぎたことが原因と疑われた。
83	細菌感染	Euro Surveill. 2012;17(21):pii=20186	英国における、ヒトからヒトへの感染が疑われたオウム病症例の報告。2012年2月、テイスайд州において肺炎患者5例が報告された。患者は親族の4例と医療従事者1例であり、この医療従事者は最初に症状が認められた患者の世話をしていた。患者検体より、 <i>Chlamydia psittaci</i> がPCR法により確認された。感染源の推定は不可能であったが、症例発現の時間範囲が1-22日間であったことから、ヒトからヒトへの感染が示唆された。オウム病は一般的に動物 (主に鳥類) からヒトへの感染症と考えられていたが、ヒト間で感染する可能性があることが報告された。
84	細菌感染	Haemovigilanz-Bericht Des Paul-Ehrlich-Instituts 2010	ドイツにおける輸血との関連が疑われる細菌感染症例の報告。ドイツの生物学的製剤規制機関であるポール・エーリッヒ研究所 (PEI) が入手した輸血副作用の概要報告書2010年版が発行され、その中で細菌感染症例が2例報告された。1例目の患者は急性骨髄性白血病の36歳女性であり、赤血球濃厚液 (RCC) 及び血小板濃厚液 (PC) 投与後に発熱、蕁麻疹、呼吸困難、頻脈等が発現し、血液から <i>Streptococcus agalactiae</i> が検出された。RCCの残液の検査においても <i>Streptococcus agalactiae</i> が検出された。2例目の患者は慢性腎不全の77歳男性であり、RCC投与後に悪寒、発熱を呈した。RCC及び患者血液から <i>Panta agglomerans</i> が検出された。
85	細菌感染	J Clin Microbiol. 50(2012)2969-2973	<i>Streptococcus mitis</i> グループの新たな菌種である <i>Streptococcus tigurinus</i> に関する報告。感染性心内膜炎患者から <i>S. tigurinus</i> が分離されたことを受け、 <i>S. tigurinus</i> の臨床感染症への関連及び口腔内の存在について評価された。2003-2012年の期間に得られた臨床検体の16S rRNA遺伝子配列についてレトロスペクティブに分析したところ、14例の患者の通常無菌部位 (血液、脳脊髄液または心臓弁) から <i>S. tigurinus</i> と考えられる17件の16S rRNA配列を検出した。これらの患者は重症侵襲性感染症に罹患していた。また、ポランティア31例の唾液検体から得られた $\alpha$ -溶血性細菌のコロニー608株のうち26株がMALDI-TOF質量分析スクリーニングによって <i>S. tigurinus</i> であると示唆された。しかし16S rRNA遺伝子分析では、 <i>S. tigurinus</i> に分類できる株は1つもないことが示された。 <i>S. tigurinus</i> が口腔内細菌叢の一部として存在することは稀であるが重要なヒトの病原体であることが示唆された。
86	細菌感染	The Brazilian Journal of Infectious Diseases. 16(2012)390-392	ギリシャにおけるブタの咬傷による <i>Myroides odoratimimus</i> 感染の報告。患者は免疫正常の13歳男児であり、ブタに右脛骨を噛まれた6時間後に高熱が発現して入院した。咬傷部位は蜂巣炎の徴候を呈し、右脛骨内側顆に溶骨性病変が認められた。抗生物質の投与前に採取した膿性スワブ検体から、 <i>M. odoratimimus</i> が同定された。手術によりドレーンを設置し、抗生物質投与により回復した。本症例はブタ咬傷による <i>M. odoratimimus</i> 感染の初めての報告である。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
87	細菌感染	Vox Sang. 103(2012)93-98	皮膚疾患患者と対照群での皮膚細菌の比較に関する報告。供血を延期された皮膚疾患の供血者55例について、各症例に3例のコントロールを対応させ、静脈穿刺前腕部の皮膚から細菌培養サンプルを採取して検査を行った。その結果、コロニーを形成した皮膚細菌の全数の中央値は、コントロール群(105 CFUs/例)に比べ症例群(224 CFUs/例)で有意に高かった。黄色ブドウ球菌は、コントロール群(7%)と比較して症例群(49%)で有意により多く存在した。他の細菌属に関しては症例群とコントロール群の間に違いは見られなかった。この研究は、皮膚疾患を有する供血者の現行供血延期ガイドラインが、皮膚に細菌を多く有する者や黄色ブドウ球菌保有者を効果的に識別することを示している。
88	アメリカトリパノソーマ症	32nd International congress of the ISBT. 5D-S43-03	米国の供血者におけるTrypanosoma cruzi (T. cruzi) 新規感染発生の検証に関する報告。米国において、供血者の新規T. cruzi感染はないという予備データに基づき、一度T. cruzi抗体検査が陰性であれば、将来の全ての供血を適格とする選択的抗体検査について検証された。現在、T. cruziがハイリスクである4つの地域で全数検査が維持される一方で、残りは選択的検査が実施されている。4年間の研究において、422万人の複数回供血者が1,435年の平均供血間隔で追跡されたところ、抗体が陽転した供血者はいなかった。調査期間中、前回の供血がELISAで陰性であったRIPA陽性供血者が22例確認されたが、さらなるサンプリングにおける抗体陽性は断続的で、40日以上4年間の追跡調査中に完全に抗体陽転化することはなかった。また、PCRや培養により寄生虫血症となった供血者はいなかった。よってこれら22例は偽陽性または遠い過去での初感染であったと思われる。今回の調査結果より、観察された新規感染率がゼロであることに基づき、米国において初回陰性結果に基づく選択的検査は、全数検査に匹敵する安全性を提供していると示された。
89	アメリカトリパノソーマ症	Transfusion. 52(2012)1913-1921	輸血を介したTrypanosoma cruzi感染に関連する供血者、製剤及び患者の特性についての報告。北米及びスペインでは、輸血感染を防ぐためにT. cruzi感染症の選択的供血者検査を行っている。感染の血清学的所見を持つ血液成分の感染性を推定するために、輸血感染T. cruzi症例の体系的レビュー及び北米及びスペインで実行された受血者追跡事例について評価された。その結果、20例の受血者T. cruzi感染例は、1987年～2011年の期間の血清学的感染確認供血者18例(受血者追跡のみによって確認された11例を含む)に関連していた。感染が特定された患者は全て白血球除去及び照射製剤を含むアフレーションまたは全血由来の血小板製剤による感染であった。全血輸血に感染の可能性はあるが、赤血球及び凍結製剤による感染の証拠はなかった。このことから、血小板及び新鮮全血供血において選択的検査が考慮されるべきであることが示唆された。
90	アメリカトリパノソーマ症	Transfusion; published online. Mar 8, 2012	米国の供血者におけるシャーガス病原原因原の昆虫媒介性感染に関する報告。米国内の昆虫媒介性感染負荷を評価し、推定されるリスク要因を明らかにするため、約2900万供血のスクリーニングから確認された1084例のTrypanosoma cruzi (T. cruzi) 陽性者のうち調査参加資格を満たす供血者37例について調査が行われた。15例(41%)が血清学検査結果が4回もしくは5回陽性であり、T. cruzi感染陽性とみなされ、うち1例は血液培養検査陽性だった。15例中3例が流行国の農村地域を訪れたことがあったが、2週間以上滞在した者はいなかった。全例がT. cruzi媒介昆虫や感染したほ乳類の生息地に居住した経験があり、13例が野外でレジャーや仕事をしたと報告し、11例が私有地で宿主動物を見た報告した。この研究に基づく土着性感染の推定割合は供血者354,000人につき1人である。米国での昆虫媒介性感染の発生源を特定することが、感染リスクのさらなる評価のために必要である。
91	バベシア症	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)1318-1321	米国におけるバベシア症の垂直感染に関する報告。2002年9月16日、生後6週目の女児が発熱、不穏、食欲不振から入院した。母親は妊娠中、出産後も無症候であり、妊娠中にダニに咬まれた覚えはなかった。乳児のダニ曝露は確認されておらず、母子ともに輸血歴はなかった。児の末梢血スミアは赤血球の4%にB. microtiを示し、血液検体はB. microti DNA陽性であった。また、総B. microti抗体価は256倍以上であった。生後3日目に採取した血液が検査されたところ、B. microti DNAは陰性であり、IgM抗体陰性であるが、総抗体は陽性(128倍以上)であることが分かった。パラフィン包埋胎盤組織の検査によりBabesia DNAが検出された。児の罹患時、母親はPCRとスミアではBabesia陰性であったが、総抗体価は陽性であった(256倍以上)ことが判明した。以上より本症例は、母親の分娩前感染症が原因の先天性バベシア症であると診断された。患児の生後3日目の血液サンプルの分析で検出されたBabesia抗体は、恐らく母親のIgG抗体が移行したことを意味する。バベシア症の流行地域における乳児の発熱及び溶血性貧血の鑑別診断において、この診断は考慮されなく
92	バベシア症	MMWR. 61(2012)505-509	米国における2011年のバベシア症サーベイランスに関する報告。2011年1月、18州にてヒトバベシア症のサーベイランスが開始された。2011年に報告されたバベシア症は1,124例であり、うち1,092例が7州(コネチカット、マサチューセッツ、ミネソタ、ニュージャージー、ニューヨーク、ロードアイランド、ウィスコンシン)からの報告であった。感染源に関するデータの得られた295例では、156例(53%)が発症前8週間以内にマダニに咬まれており、9例がマダニが媒介する他疾患の診断を受けていた。輸血関連はレシピエントが10例、ドナーが2例で報告され、ドナーの感染例は共にレシピエント1例と関連していた。発症時期は6～8月が最も多く、症状は発熱、寒気、筋肉痛が多く認められた。死亡例は4例であったが、1例はバベシア症による死亡ではなく、他の3例はバベシア症との関連性は不明である。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
93	バベシア症	Transfusion. 52(2012)1509-0516	米国におけるBabesia microti (B.microti) 抗体陽性供血者の遡及調査に関する報告。コネチカット州において、1999年から2005年間に、B.microti検査が陽性であり遡及調査対象となった474供血、656製剤から、合計208例の抗体陽性供血者が同定された。63例の受血者がB.microti検査を受け、8例(12.7%)が免疫蛍光アッセイ(IFA)やPCRで陽性であった。抗体陽性供血者の供血延期実施後の2001年(3/48人、6.3%)に比べて、1999年から2000年(5/15人、33.3%)においてB.microti陽性受血者の割合が有意に高いことが判明した。有意差は、IFA陽性となった供血と前回供血及び寄生虫血症供血者と非寄生虫血症供血者からの製剤受血者の陽性率を比較した時にも見られた。遡及調査を通してB.microti感染が検出されたこの報告は、米国の血液受血者におけるB.microti感染を減少させるための介入が必要であることを示している。
94	マラリア	<a href="http://www.fda.gov/BioLogics/BloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/ucm077061.htm">http://www.fda.gov/BioLogics/BloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/ucm077061.htm</a>	輸血関連マラリア感染のリスク低減のための輸血管理に関するガイドラインのドラフトが発表された。主に以下の供血延期措置をとるよう勧告されている。 ・マラリア感染既往がある者は、治療成功証明書がない限り無期限の供血延期とする。 ・マラリア流行国での居住後3年間は供血延期とする。 ・マラリア流行地域への渡航歴及び通過歴のある者は出国後1年間の供血延期とする。ただし、メキシコの中でもマラリア感染率が低い特定の州に対する渡航は供血延期に該当しない。
95	マラリア	MMWR. 60(2011)No.3	米国における2009年のマラリア感染の報告。輸血/移植による感染例が3例報告された。【症例1】西アフリカ出身の女性において、幹細胞移植と輸血を受けた後、熱帯熱マラリア原虫(P.falciparum)感染が確認された。その後、幹細胞を提供した西アフリカ居住の兄弟から再検査によりP.falciparumが確認された。【症例2】27歳の男性が多数の血液製剤投与後にP.falciparumによるマラリアと診断された。血液製剤の供血者を調査したところ、マラリア感染歴のあるナイジェリアからの移民の男性がいたことが判明した。【症例3】化学療法による貧血で輸血を受けた肺癌患者の78歳男性において、P.falciparum感染が確認された。輸血製剤の供血者の調査の結果、中国、ウガンダ、ブラジルに旅行歴がある30歳の女性供血者にマラリア抗体が検出された。
96	マラリア	MMWR. 61(2012)SS02;1-17	米国における2010年のマラリア感染の報告。輸血による感染例が1例報告された。患者は55歳女性で、心臓手術のために複数の血液製剤投与を受けた後、1ヵ月後に熱性疾患で再入院し、熱帯熱マラリア原虫(P.falciparum)感染が確認された。血液製剤の供血者の調査の結果、23歳の男性1名が感染源として疑われた。彼は17年の西アフリカ居住歴があったが、供血前4年間は海外渡航していなかった。PCR検査により血中からP.falciparumのDNAが検出された。
97	マラリア	ProMED-mail 20120526.1145926	インドにおけるマラリアの報告。インドのグジャラート州Ahmedabadにおいて、2011年の1月から4月のマラリア患者は550例程であったが、2012年は4月までに1600例以上の患者が発生している。モンスーン開始を前にした増加であると推測されている。一方で、マハーラーシュトラ州においては4月までに13,067例のマラリア患者と3例の死亡が報告されているが、前年の半数以下であった。
98	マラリア	ProMED-mail 20120616.1170189	インドにおけるマラリアの報告。インドのグジャラート州Ahmedabadの市保健当局によると、1年前と比べ、2012年はマラリア患者数が3倍に増えている。2011は5月までで946例であったのに対し、2012年には3047例が報告された。当局調査の結果、Ahmedabadでの蚊の発生密度は減少しているとしていたにもかかわらず、マラリアの感染が拡大していた。
99	感染	J Clin Microbiol. 50(2012)1818-1820	オランダにおける初のヒト多包虫症の報告。オランダ国内でEchinococcus multilocularisに感染したと推定される患者1例が報告された。患者は55歳女性で、病変は急速に進行し、最大で1.7cmの肝病変が6ヵ月間にわたって多数発現した。配列解析では感染源を明らかにできなかったが、E. multilocularisは患者が居住するオランダ南部のキツネの間で流行しており、国境を接するベルギーでは3例の症例が報告されていることから、国内での感染が考えられた。
100	その他	<a href="http://www.observer.org.sz/index.php?news=42867">http://www.observer.org.sz/index.php?news=42867</a>	スワジランドにおける原因不明のウシの集団死に関する報告。スワジランドにおいて、数日間多くのウシが原因不明で死亡したことが2012年9月9日に明らかとなった。Manzini地域もその1つで、約25頭のウシが原因不明の病気で死亡した。11日、同国大臣はウシの死亡が全国的に発生していることを認めた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
101	その他	ProMED-mail 20120412.1098005	メキシコにおける原因不明のウシの集団死に関する報告。メキシコのSan Juan del Rioにおいて、約30頭のウシが死亡した。原因は不明だが、何らかの中毒と考えられている。San Juan del Rioでは干ばつが起きており、さらに被害が広がる可能性がある。
102	その他	ProMED-mail 20120808.1234912	カザフスタンにおける原因不明のウシとヒツジの集団死に関する報告。2012年8月、カザフスタンのAkmolaにおいてウシの大量死が発生した。原因は不明である。また、過去3ヶ月間にわたってほぼ連日で、Zarechnoye村のヒツジの死亡も起きている。家畜の体幹にこぶができ、その後突然頭部が腫脹するとの症状である。現地の獣医師は、何かの植物へのアレルギーではないかと見ており、他の牧草地で放牧するよう忠告している。